

Title	危機的状況下における経営者の予測能力と対処能力
Sub Title	
Author	深作三郎(Fukasaku, Saburou) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第715号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0715

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 深 作 三 郎
(株式会社電通)

主査 高 木 晴 夫
副査 嶋 口 充 輝

所属ゼミナール 高 木 晴 夫 研

奥 村 昭 博

危機的状況下における 経営者の予測能力と対処能力

従来の企業危機に関する研究では、企業危機は予測でき、また平常時における経営者の諸能力が企業危機でも保たれることを前提にして、その対処方法を論じているきらいがあります。

本研究で行なうことは、従来の研究では前提とされていた経営者の予測能力と対処能力について再検討することであり、また企業危機が経営者にどのような影響を及ぼすか考察することです。

また、本研究では、企業危機のもつ広範さゆえに、研究領域を限定いたしました。わたくしの取り扱う企業危機は、危機に対処する猶予時間が短く、経営インフラストラクチャーにかかわる程度が深い領域を対象といたします。

本研究では、企業危機と類似の危機的状況であります災害研究、戦争研究や認知心理学を通して考察を行ないました。その結果、危機的状況下における経営者について、以下のことが推測できます。経営者の危機対処能力は、通常のマネジメントの中で退化してしまう可能性があること。緊急事態を認知しにくいであろうこと。不確実性下、ストレス状況下では対処能力が低下するであろうこと。つまり、経営者が企業危機に対処していくことは基本的に困難であるということです。しかしながら、経営者がメタ認知を獲得できれば対処能力がある程度、向上する可能性があると思われます。

今回の研究で得られたことは、殆どが推測ですが、今後の企業危機研究の再構築をはかる上で、経営者に着目し、緊急時における経営者の基礎的な研究ができたのではないかと考えます。